



原田議員

問

1. 新町総合計画策定はどの進めるのか。国、県プロジェクト等との整合をどう図るか
2. 静岡空港開港は、川根・奥大井振興のビッグチャンス。どう対応して行くか

質問 新町の経営計画である「川根本町総合計画」の策定作業が着手されたが、目に見える地域振興策が盛り込まれた計画策定が望まれる。どのよう

に進めるのか、また、この中で町民ワークシヨップには何を期待しているのか。

町長 第一次川根本町総合計画は平成19年度〜28年度までの10年間の計画。住民アンケート調査の実施や子供ワークシヨップの開催により町づくりへの意見を出してもらった。現在、町民ワークシヨップ（37名）、役場庁舎内検討委員会を開催中。今後、総合計画審議会を経て、基本構想を10月に、基本計画を2月までにまとめる予定。町民ワークシヨップには、

住民の関心事を広く取り上げ協働により町づくりを行うべき事業を意見としてまとめて頂きたい。

質問 町周辺には至近年に静岡空港の開港、第2東名の一部運用開始、川根町と島田市との合併、奥泉発電所の水利権の更新等の様々な出来事が起こってくる。新町総合計画策定にあたってはこれらの事業との関わりが重要であると思われるが、どのように整合を図るか。

町長 静岡空港開港への対応については、県および広域の観光協議会等と連携をとりながら進めて行く。川根町と島田市は現在合併協議を進めているが、必要があれば1市2町のそれぞれの各種協議会等で議論を深めていきたい。大井川の水利権更新に関しては従来

のようない種々の協力を得ながら進めていきたい。

質問 静岡空港開港は川根・奥大井の交流人口を飛躍的に増加させ得るビッグチャンスであるものと思われる。このため港までの間に外国人を含めた観光客受け入れ態勢を整えることが必要であり、総合計画としても最

優先で取り組まねばならぬ。平成21年3月開港までの間に外国人を含めた観光客受け入れ態勢を整えることが必要であり、総合計画としても最



ないテーマであろう。地域資源、既存施設の活用策や奥大井南アルプスマウンティンパーク構想の具現化が必要と思われるが、どのような対応策を考えているのか。

町長 静岡空港は、韓国、中国、台湾、ハワイなどからの国際線の乗り入れを想定しており、観光客の受け入れ態勢の充実が必要。音戯の郷、ウッドハウスおろくば、茶茗館等の施設、SL、アプト式

鉄道、温泉、渓谷、吊橋、等の観光資源をリンクさせた観光ルートの設定が必要。外国人観光客誘致促進のため、外国語併記

のパンフレットや商品プログラムを作成、おもしろな講習会等も必要。また、外国語習得に大学の外国人留学生を招いて研修することなどが考えられる。地域の魅力づくりが必要であり、空港から南アルプスまでを貫く県中部全体で大井川鉄道との連携による周遊ルートの構成、滞在型の観光エリアを作っていくことが大事。

質問 静岡空港はこれからの川根茶PR戦略上重要な役割を持つものと思う。観光客への川根茶でのPR戦略としても有効であると思われる。どのようなPR戦略として有効であるか、考えておられるのか。

町長 空港の中にどのような業者が入るのか、どのようなブース配置になるのか確定していないが、空港を使った戦略は

答

1. 町周辺の出来事や近隣市町の動向により各種協議会等での協議を行い連携を図る
2. 大井川鉄道と地域資源を結びつけた周遊ルートの整備が重要。